

1 筋ジストロフィー症の根治に向けて

東京大学大学院 神経内科学教授

戸田 達史



デュシェンヌ型筋ジストロフィーの原因遺伝子としてジストロフィンが発見されて以来、この30年間で、40種以上の筋ジス原因遺伝子が報告されている。我が国において、デュシェンヌ型に次いで多い小児期筋ジスである福山型先天性筋ジストロフィー（FCMD）は、先天性筋ジストロフィーに脳の異常を伴う疾患であり、我々の90人に1人が保因者である。1960年に故福山幸夫博士によって発見され、その約40年後の1998年に、我々によって、原因遺伝子フクチンが同定された。根本的治療法につながるアンチセンス核酸治療法を発見して、臨床試験をめざしている。本講演では、筋ジストロフィーの臨床、病態、治療戦略について紹介する。

2 パーキンソン病の根治に向けて

大阪大学大学院 神経内科学教授

望月 秀樹



パーキンソン病は、今までL-dopaを中心とする対処療法が主体の病気でした。特に進行すると治療法がないと考えられていましたが、進行期の方にも新しい投与方法や画期的な手術療法が出現してきました。また、再生医療や遺伝子治療という新たな治療方法も開発されてきましたので利点や問題点など分かりやすくご紹介します。

3 次世代のために 本邦ブレインバンクの取組み①

国立精神・神経医療研究センター
臨床検査部臨床検査科医長

齊藤 祐子



日本ブレインバンクネットは、精神疾患と神経疾患を主要な対象とする、オールジャパン体制のネットワーク型ブレインバンクです。国内の主要ブレインバンクが集結・連携し、それぞれの独立性を保ちつつも共同して活動しています。患者様の篤志と、疾患克服を目指す脳科学研究者との橋渡し役を担っています。ヒト脳研究を活性化し、疾患の克服のための脳科学研究の推進に貢献することが私たちの願いです。当日は現在の活動について紹介致します。

3 次世代のために 本邦ブレインバンクの取組み②

東京都健康長寿医療センター
神経内科・バイオリソースセンター・
高齢者ブレインバンク(神経病理) 部長

村山 繁雄



大阪大学・徳島大学・東京医科大学・首都大学東京・同志社大学客員教授、東京大学・福島県立医科大学・北里大学・帝京大学非常勤講師、国立国際医療研究センター・国立病院機構東京病院・静岡てんかん神経医療センター・広島西医療センター・虎ノ門・NTT東日本関東・横浜労災・亀田総合・近森病院指導医

ブレインバンクはアルツハイマー、パーキンソン病等の根治療法の開発を目指し、なくなった時自分の脳を希望の贈り物として次世代のため引き継いで行く、命の輪をつなぐ運動です。当センターは患者様に最初から最後まで寄り添う事業として行っています。